

## 報告講演

### -1 社会調査からみたセーフコミュニティ活動の課題 ～安心安全と健康をつなぐ社会的結びつき～

中谷友樹 立命館大学文学部人文学科地理学専攻准教授



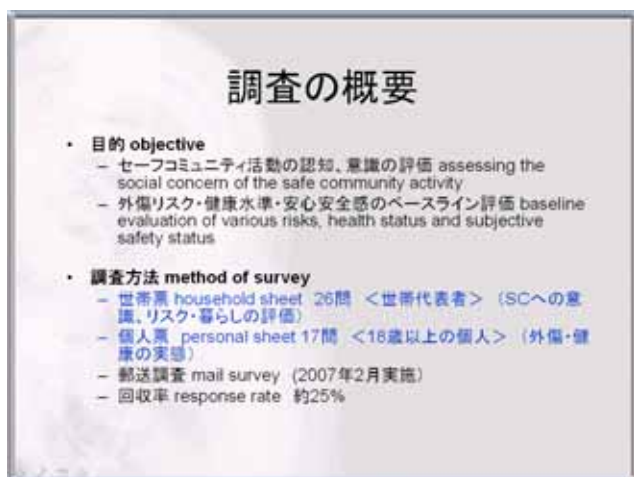
全体は5部から構成されておりまして、この調査でどのようなことをやったかという紹介と、それをふまえて、今現在、亀岡市の中での外傷と健康に関する実態を整理します。そのあとで、健康や外傷をめぐって決まっているであろうと思われる、安心・安全な暮らしができていくかという実感について整理させていただきます。最後にこのセーフコミュニティ活動に関して、参加の可能性やその所在というものについて、セーフコミュニティへの関心をお聞きした部分から、整理させていただこうと思います。



#### 1 調査の概要

この調査は主に、2つの目的を持って行いました。1つは、セーフコミュニティ活動に亀岡市は昨年取り組んでいるわけですが、その活動が認知されているのかどうか、そして賛同していただいているのかどうか、こういったセーフコミュニティ活動に関する可能性を探ろうという点がある。

もう1つは、第1段階に行うのは、外傷のリスクというのがどうなっているのか情報を集めることだというのがありましたけれども、それを集めよう、整理しよう、外傷リスクに関する1番最初のベースラインを調査しようという。そのほかにもいろんなアイデアをお持ちの方がいらっしゃると思いますので、そういったアイデアを募集するという意味合いもございましたが、今日は割愛させていただきます。



調査方法は、いわゆる郵送調査といわれるものがありますが、各世帯に、世帯に関する質問と個人に関する質問をそれぞれ調査票にまとめて、これを郵送で回収いたします。

調査の配布に関しましては、自治体の広報誌・回覧を通して配布いたしまして、亀岡市民のみならず



## 調査組織

- ・ 田中 秀門 (亀岡市役所企画課主任主幹)
- ・ 八田 直哉 (京都府企画環境部企画参事付 企画主任)
- ・ 白石 陽子 (立命館大学政策科学研究科博士後期課程・マチュールライフ研究所)
- ・ 本田 豊 (立命館大学政策科学部教授)
- ・ 松田 亮三 (立命館大学産業社会学部助教授)
- ・ 中谷 友樹 (立命館大学歴史都市防災研究センター准教授・文学部兼任)

調査にご協力頂きました、京都府、亀岡市、自治会関係者ならびに地域住民の皆様には、深く感謝申し上げます。

の9割以上の世帯をカバーしました。

回収率は4世帯に1世帯がご回答いただいているという状況であります。地域ごとに若干の温度差はあるものの、軒並み高い回収率を達成できたのではないかと思います。

調査組織であります、私を含めまして、このようなメンバーで調査票を企画して実施いたしました。調査票をお読みいただきましたみなさま方には、深く感謝申し上げます。

## 2 外傷と健康の実態

それでは集めましたデータについて、順次整理させていただきたいと思いますが、まずは外傷、そして健康に関する主観的な評価、みなさんが自分自身でどう思っているのかについて、個人レベルで集めた情報から整理したいと思います。

これは主に個人票から得ているものでありまして、18歳以上の方が対象になっております。子どもに関しては入っておりません。子どもに関しては世帯表で質問しているのですけれども、今回集計が間に合いませんでしたので、18歳以上の方だけでお話しさせていただきます。

個人票では何を聞いているかといいますと、過去1年間にケガや転倒をしたことがあるかどうか。ケガの内容はどのようなものなのか、そして自分で自分の健康をどう思っているのか、ということに関する調査。そして、個人をつないでいるネットワークの状況、気軽に相談ごとができる知人や、何かあったときに助けてくれる身近な人々がどれくらいいるのか、そういった指標を質問しています。

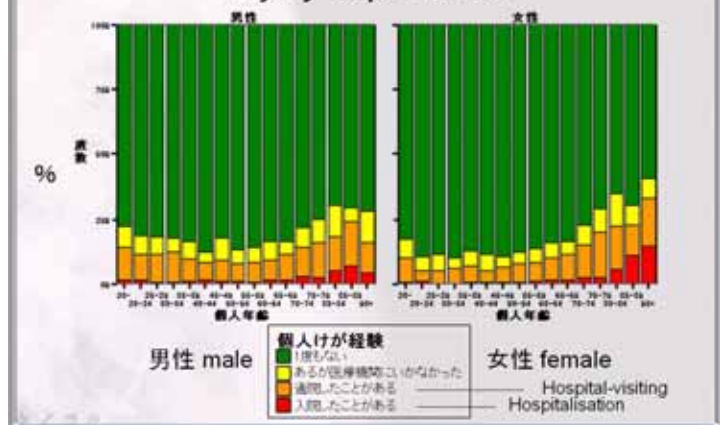
これが、ケガの経験を整理したものです。左側が男性で、右側が女性です。年齢別になっておりまして、緑色が、一年間1度もケガしませんでした、黄色がケガしたけれど医療機関に行かなかった。オレンジ色が通院したことがある。赤色が入院したくらいひどいケガをしたという分類です。男性も女性も若干40代で高く、若年層も高くなっており、これは、おそらくスポーツ中にケガをするのが多いと思います。また、高齢者層で60歳を越えまると、ケガの経験が上昇していくことが分かり、年齢差がはっきりしていることが分かります。

ケガをする頻度でいえば男性の方が多いのですけれども、深刻さの度合いからいうと女性の方が深刻なことが多いということも高齢者層でははっきりしております。これは通院と入院をしたケガに絞って、どこでケガをしたのかというものを整理したものです。

## 指標について indicators

- ・ 過去1年間のけが・転倒の経験 Injury & falling experience
  - 通院・入院の有無と内容
- ・ 主観的健康度のサマリースコア(身体的・精神的) Summary scores of physical and mental health condition based on SF8
  - 主観的な健康評価は、生活の質を評価する重要な指標である。
- ・ ネットワーク指標 social network
  - 相談ネット: 気軽に相談ができる親族や友人・知人の人数

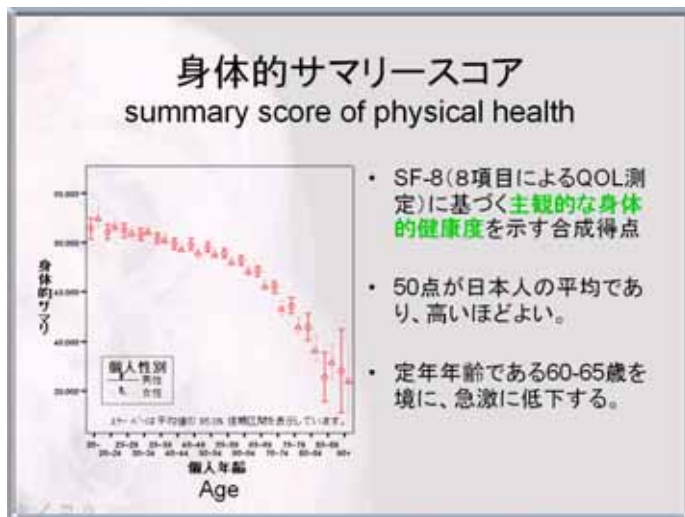
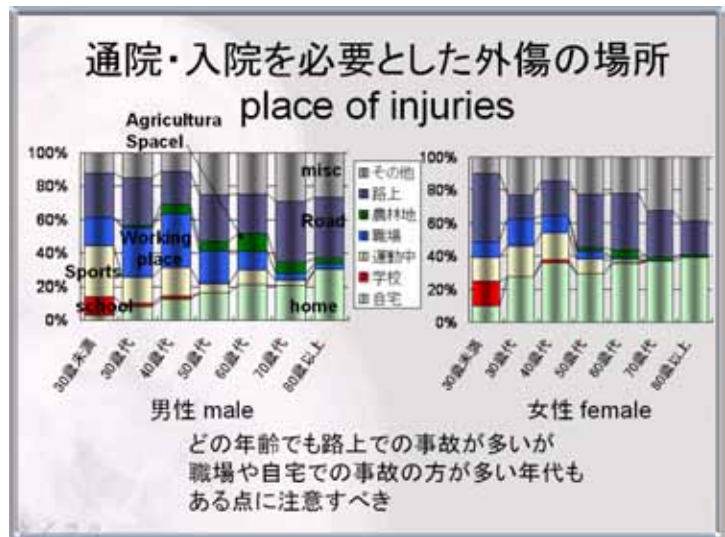
## けがの経験(過去1年間の通院・入院の有無) injury experience



年齢階級別に場所を6種類に分けました。左側が男性ですけれども、一番下が自宅、次が学校、次が運動場・体育館、職場、道路上、それ以外区分できないもの。

住環境が集計しておりますので、区分が難しいところがございます、若干まだ怪しいところもいっぱいあるのですが、学校ってというのは、だいたい体育の授業中や部活動中に起きている、スポーツとかなり関係が深い。農林地というのは、職業で農業をされている方が作業中にぎっくり腰になるパターンが多いようになっています、道路上はやはり交通事故が多いのですが、中には犬に噛まれたや、殴られたというような犯罪めいたものの中には混ざっています。たいていは車にはねられたとかそういうものです。

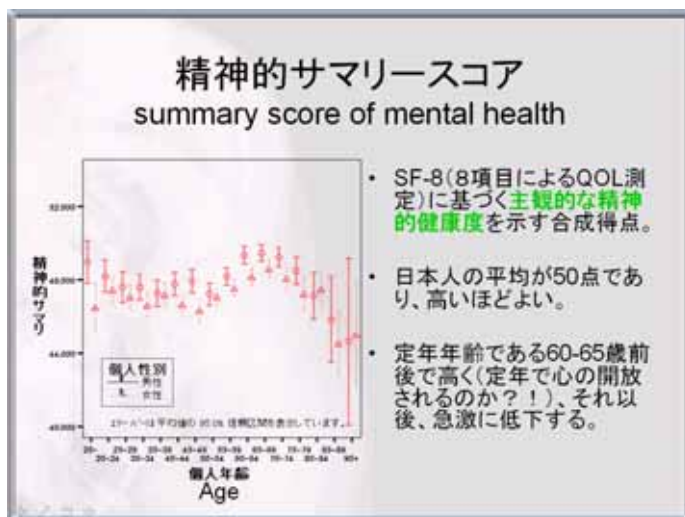
一方、自宅の方ですけれども、多岐に渡っていて集計が難しいのですが、段差に躓いてというのが高齢者層では明らかに多くなっています。ムカデに刺されたなどもあります、その辺の細かい状況は別の機会に集計させていただきたいと思います。



これは視覚的に見て自分が体の痛みを覚えて仕事ができなかったとか、そういったフィジカルな面において健康かどうかを質問した集計結果です。

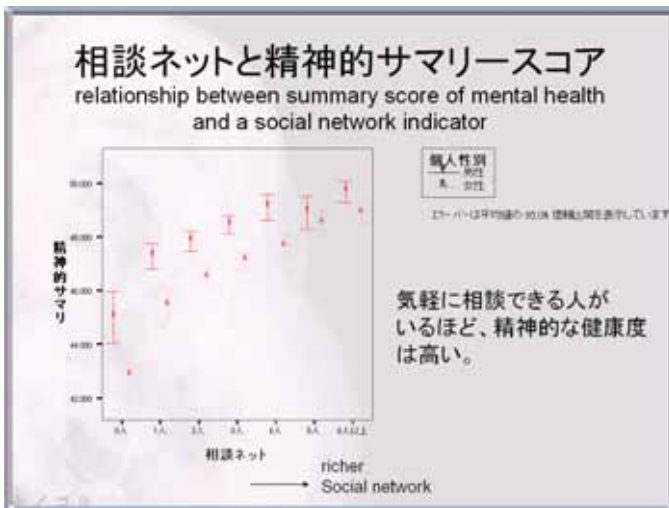
これは8項目の質問を集計してつくられる得点ですけれども、上の方が健康的となります。日本人の平均が50点となっているのですが、これは年齢に伴い、60代ぐらいからポイントは低下していきます。この辺は常識と照らし合わせても違ってこないと思います。

次は精神的な面での健康状態で、気分が落ち込んでいる、仕事がうまくいかなかった、そういったものについて集計したような得点があります。これも8項目の質問を合成して作られているものでありまして、上に行くほど健康的ということになります。



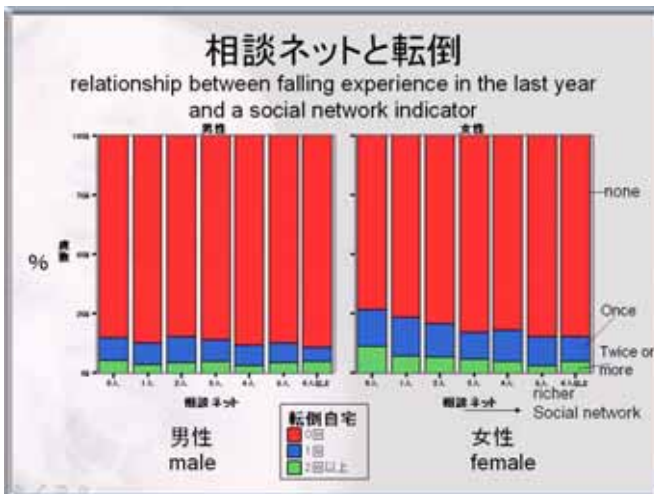
横軸は年齢階級、男性と女性で区別されています。これも50点が日本人の平均で、それを信じてしまうと亀岡市のみなさんはあまり健康でないということになってしまうのですが、調査のベースとなっている時期の違いがありますので、あまり深く考えないでください。

このスライドを見てみますと、60代から、高齢化に伴い精神的に落ち込む度合いが進んでいくというのが分かるのですが、見ていると1回下がって上がるという傾向があります。よく見ていただくと、40代ぐらいが1番落ち込む時期



こういったものが、こういったものと関連して健康状態に影響するのかについて、いろいろな指標で調べてみたのですが、非常に関係が深かったのは、気軽に相談できる友人や知人がどれくらいいるのかということです。上のスライドで右側が気軽に相談できる人が6人以上で、左が誰もいないという方なのですが、特に精神的なスコアは友達がたくさんいる方が、あきらかに男性も女性も優れています。

転倒というのは非常にケガの大きな要因になるのですが、特に女性に関してみますと、フットワークが豊かな人ほどケガにあう可能性が低くなっていくということになります。これは因果関係にあるかもし



だったりします。この辺りが、中間管理職の自殺の問題と関係するように思うのですが、この時期に社会的責任が重くのしかかってきて、子どもの成長を見守る上でも重要な時期になっていると思います。こういった時期を精神的にうまく乗り切れるかどうかというのは、重要だと思います。

60代で一番状態がいいというのは、世間では定年になって仕事を失った人がブルーになって来るとい話がありますけど、むしろ逆でもうすぐ定年だということで、その前後が一番心の上では健康なのかもしれません。

れられません。ケガをしたことによって、女性の方はより内に籠もってしまう、ということかもしれません。いずれにしましても、ケガや転倒などという外傷の機会というもの、社会的な結びつきの度合いという間には、密接な関係があって、ある一面では豊かな人間関係を築いている人の方が健康的にられるという面がありますし、逆に転倒やケガを契機にして、自分の生活の質を落としてしまう、ネットワークを失うということも起こりうる、ということを示唆しています。

### まとめ

- **けが・転倒の経験は、性・年齢に応じた特徴をもっている。**  
- There exist clear patterns of injury & falling experience depending on age and sex.
- **けがや転倒の経験は、身体的・精神的な健康度(生活の質)を低下させる。**  
- Injury & falling experience lowers both physical and mental health status
- **「孤立」することは、精神的な健康度を低める重要な危険因子であり、女性の場合、転倒など外傷経験とも関係しやすい。**  
- "isolation" is a major risk to worsen mental health status

整理いたしますと、ケガや転倒については、明らかに性や年齢に応じた特徴を持っておりますので、それに対応した今後の施策を考えていくことが当然必要であります。それから、ケガや転倒の経験というものは、身体的・精神的ともに健康というものを目指すポイントになってくることは、間違いのないと思います。そして、社会的に孤立するというのが、精神的な健康を低めるとか、重要な要因になっていることは過去の経験からいっても間違いのないかと思ひます。

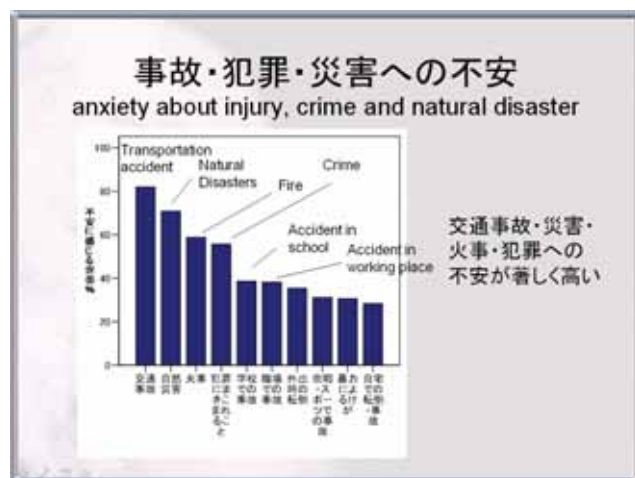
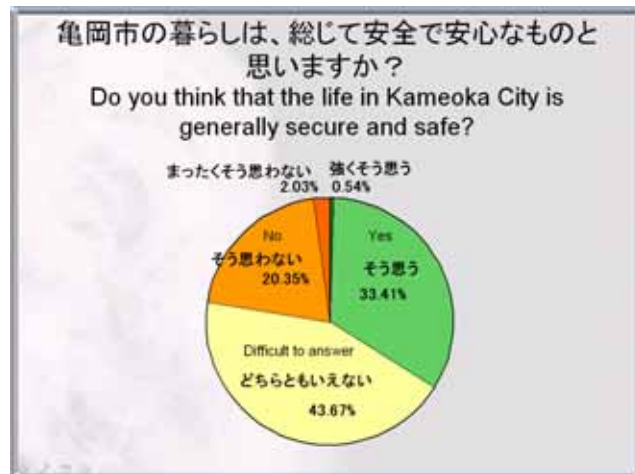
### 3 安心安全感と生活の質

次に、世帯での暮らしの中で、安心・安全感というものがどうなっているのか、個人の健康や外傷の経過を含めて、もう少し広い意味で、安全なコミュニティになっているかということについての評価をしていきたいと思ひます。その指標は世帯表に含まれているのですが、世帯主の方にこのような質問にお答えいただきました。

「亀岡市の暮らしは総じて安全で安心なものと思ひますか。」、そう思ふという人が33.4%ですから、亀岡市の暮らしはどちらかといえば、安全な暮らしができているといえるのではないかと思ふのですが、そう思わないという方も2割いらっしゃいました。

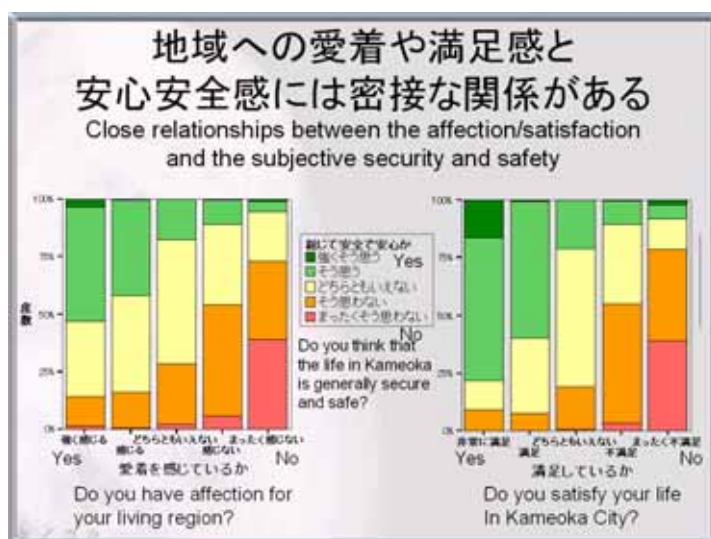
何が不安かという点については、今後家族が巻き込まれるかもしれないという不安について、いろんな項目について質問しましたが、やはり一番多いのは交通事故でした。交通問題に関しての不安が一番大きい、次が自然災害、火事、犯罪に巻き込まれること、学校でのケガ、とかそういうものです。

実際、交通事故が多いわけですし、交通事故に対する不安が大きいというのも、主観的な面と客観的な面が対応しているケースじゃないかと思ひます。自然災害については、みなさんが重大な被害を過去受けたわけではないですが、一回起こってしまったときの不安というのが大きく関わっていることも間違いはない。この安心・安全感と暮らしの質の評価というのはやはり大きな反比例にあります。

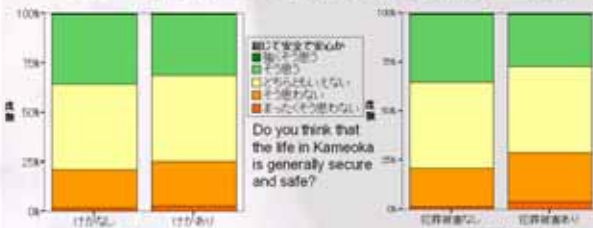


右図は「亀岡市の暮らしに愛着を感じていますか」という質問と、安心・安全感についての関係を見たものです。愛着を感じている、強く感じているという人は安全で安心だと思ふ割合が50%、ですから、愛着を強く感じるという人は、非常に安心な場所に暮らしていると思ひている。逆に全く感じないという人は、愛着をあまり感じない。

亀岡市の暮らしに満足していますかということについても、全く同じ傾向にあります。亀岡市の暮らしに満足している人は、安心・安全な暮らしを送っていて、不満という方は、ほとんど安全で安心だと思わないという関係がある。この暮らしの質を大きく決めている安心・安全感は、精神面に大きな影響を与えます。例えば、すぐ思いつく事例として、過去にケガや犯罪を受けてしまった人が、安心・安全感が大きく変わるのではないだろうかと思ひられています。



## けが・犯罪の経験と安心安全感



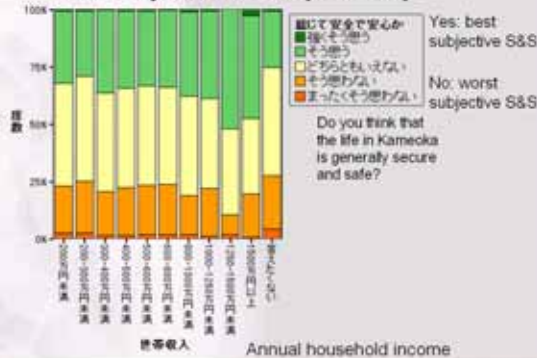
けがや犯罪の経験は安心安全感を当然ながら引き下げる  
Experiences of injuries and crimes deteriorate subjective security and safety

左側はケガの経験がある場合と、ない場合で、安心で安全だと思いますか、ということを行いました。たしかにケガをした人のほうが安心・安全感が下がります。安心で安全かという質問に対して、全くそう思わないという人が若干増えていますが、その差はそんなに思ったほど大きくはありません。

もう一つの犯罪被害の方は、もう少し強く出ています。犯罪の被害を受けた人は、安心・安全な暮らしを送れるかといわれると、そうは思わないという人が当然増えてきます。

## 世帯所得と安心安全感

Relationship between annual household income and subjective security & safety

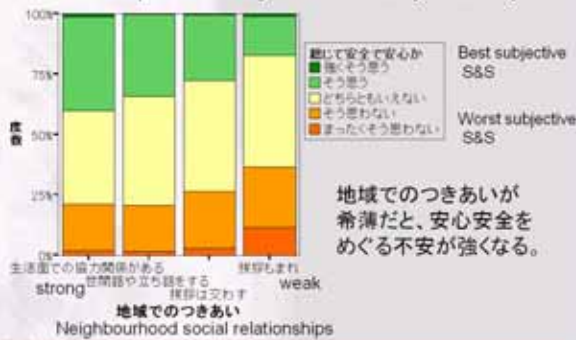


次に、世帯所得との関係を見ますと、あまり明確な差はでていません。1250万円を超える所得のある方は、若干、安心・安心だと思う人が増えますが、所得によって安心・安全感がすごく変わっているわけではなさそうです。

では、何が一番強く効いているのかといいますと、「地域でのつきあいの深さ」である、というのが1つの結論になります。

## 地域でのつきあいと安心安全感

Relationship between neighbourhood social relationships and subjective security & safety



右図は地域でのつきあいと安心安全感の関係を示したものです。右側が「あいさつもなし」、左側は「生活面で協力関係がある」という場合で、右に行くほど地域での付き合いが薄い方々ですが、右に行くほど安心・安全だと思わないという割合が増えている傾向にあるということが分かります。

こういった点でも明らかに地域的な人間関係を豊かにするということが、安心で安全な雰囲気を作る上で大きな鍵になることが分かります。

なぜこうなるかという、1つは孤立しているほど自分は犯罪に遭いやすいという思いを持ちやすいということもあるでしょうし、犯罪にあって

## まとめ

- **安心安全感の向上は、亀岡市民の生活の満足度の向上と密接な関係がある。**  
- Improvement of subjective security & safety should lead to improvement of general satisfaction of the life in Kameoka City.
- **安心安全感の向上には、けがや犯罪被害の経験ばかりでなく、地域とのつながりも重要。**  
- In order to improve the subjective security & safety, neighbourhood social relationships among local residents as well as reducing injuries and crimes should be critical.

しまった後、立ち直る自信がないとかいろいろの要因が重なっているのではないかと思います。いずれにしても孤立するということは人間をどうしても弱くしてしまい、いろんな複雑な要因の大きなポイントであることは明らかであると思います。

そうしますと、安心・安全感を向上させるということは、亀岡での生活の満足度と、その向上と密接な関係があることは間違いのないこととなります。ですからセーフコミュニティを進めるということは、生活の満足度を大きく改善することと、基本的には同じだと思えます。そして、安

心・安全感の向上には、ケガや犯罪の被害の軽減だけではなく、地域とのつながり、人間を孤立させない、というの大きなポイントになっていることも見逃さないでいただきたい。

#### 4 セーフコミュニティへの関心を決めるもの

3番目の分析でありますけれども、セーフコミュニティの関心について整理させていただきたいと思います。世帯表の最初に、セーフコミュニティの理念についての賛意をお聞きしました。「多くの事故・自殺・犯罪による死亡やケガは偶然の結果ではなくて予防できるもので、この考え方に賛成しますか」と訪ねたところ、非常に多くの方が賛成という回答をいただきました。3 / 4の方が基本的にはこの意見に賛成でした。

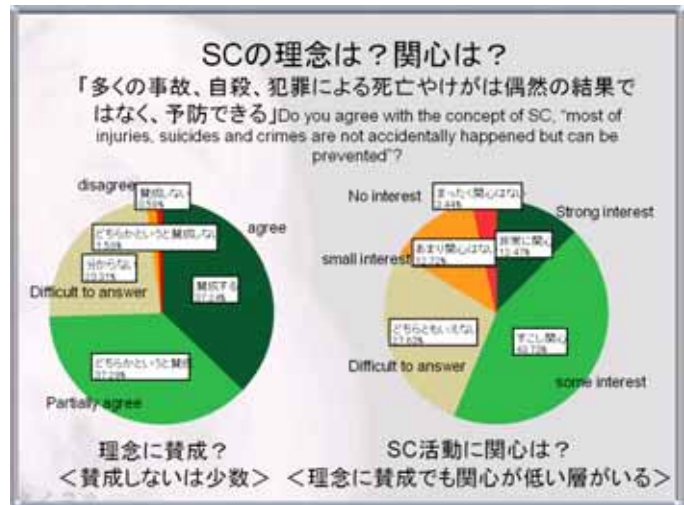
もう一つの質問は、「では、このセーフコミュニティ活動に関心がありますか」というもので非常にこれは漠然とした質問です。参加してくれますか、という質問じゃなくて、関心がありますかということですから、ある意味では一番敷居が低い質問ではないかと思うのですが、関心のある方は半数を超えていらっしゃいます。

非常に高い関心と、期待があるのだろうということは、この結果を見れば分かるのですが、左側に比べると関心があるという肯定的な意見の割合が減ることも見逃さない方がいいと思います。つまり、意味に賛成するということと、自分がセーフコミュニティに関わってほしいという意志を持つかというのは、おそらく別のことだということが読みとれると思います。

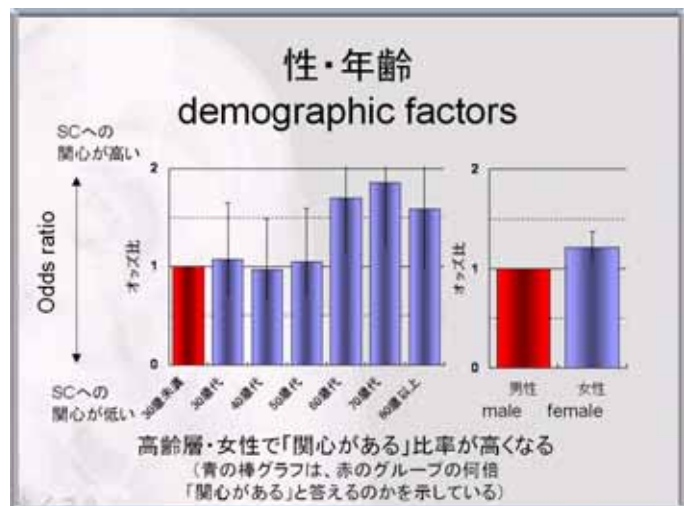
では何がこのセーフコミュニティ活動に関心を「持つ」「持たない」を決めているのでしょうか、いろいろな要因について調べてみました。これは年齢階級別、それから性別、性別は世帯主もしくは、世帯票を回答してくれた方の性別ですが、基準となる集団に対して、他の集団が何倍関心を持っているかということを示しています。

ですから、この年齢については、30歳未満の方を基準にしまして、70歳代の方は1.8倍ぐらい関心があるということになります。このグループのグラフが上方に長いほど関心が高いということになります。

やはり、60を境にして、関心を持つという人が非常に増えてきます。特に、定年を迎えまして、今の仕事に代わることの活動に対するモチベーションを持っていただけるということもあるのではないかと思います。女性の方が若干男性よりも関心をもたれる方の割合が高いですけれども、あまり大きな差はありません。



**何がSC活動への関心を決めているのか？**  
 What are major determinants of residents' interest in SC?  
*Logistic regression による分析*



また、世帯所得でありますけれども、所得が低いと参加できない、おそらく生活に余裕がないということの意味しているのではないかと思います。

ふたたび、地域との付き合いが深く関係しております、あいさつ生まれというグループを基準にしますと、あいさつを交わすとか、世間話をするとか、生活面で協力関係があるとか、地域的な付き合いが深くなるほど明らかにセーフコミュニティ活動に対する関心は高くなる。

こういった層が、今これから取り組もうとすることに就いてすぐに協力して下さる方々を多く排出するということになるわけです。

でも一番強く効いているのは何かと申しますと、地域への愛着があるかどうか、強く感じる人が、全く感じない人の8倍から9倍ほどセーフコミュニティ活動に関心を持っています。この地域のあり方というのは、安心・安全感と非常に密接な関係にあります。ですから、地域のあり方の代わりに安心・安全感について調べてみると、「安心で安全な暮らしが亀岡でおくれますか」という質問に対して、「全くそう思わない人」に対して、「安心・安全な暮らしがおこなれていると思う人」は6倍以上。明らかに強くセーフコミュニティ活動に反応しています。

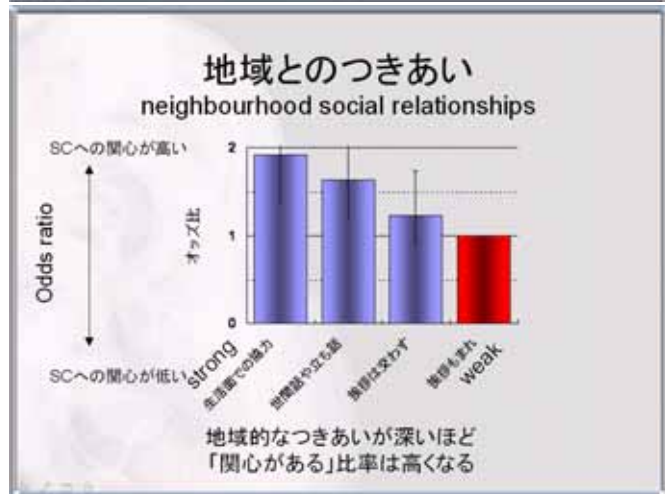
これは、少々興味深いというか、問題点を含んでいます。というのは、自分が今安心で安全な暮らしを送っている方々が、セーフコミュニティ活動に主に関心を持っている。今自分は安心で・安全な暮らしを送れてないと思う人はセーフコミュニティ活動に関して、参加に対する関心がないということの意味しています。

どうしてだろうと、1つは、信頼がないとい

うことなのかもしれません。自分たちが参加しても何か達成されるということがないのではないかと。所詮自分たちが何かやったところで、どうしようもないだろうと信頼に対する問題があります。

もう一つは、生活に余裕がない中では活動に参加する余裕がないから参加できないという気持ちがあるのかもしれません。

整理いたしますと、セーフコミュニティに対

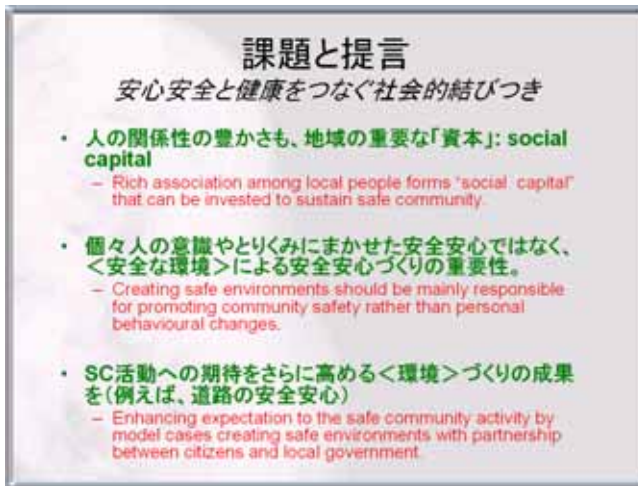


### まとめ

- セーフコミュニティへの関心・期待は大きい、「理念に賛同すること」と「関心をもって参加していくこと」には、少しずれがある。
  - There are some gaps between approval of the SC concept and interests in SC activities.
- 安全で安心な生活が営めない人ほど、SC活動に関心をもたない／自主的には参加できない。
  - Like Inverse care law, those who are most vulnerable to various risks have least interests in the safe community activity.



する関心について、期待については大きいわけですがけれども、意味に賛成することと、関心を持って参加していくことにはズレがある。そして、安心して安全な生活が営めていない人ほど、セーフコミュニティ活動に関心を持たない、若しくは自主的には参加できない、というような状況にあるということが言えるのではないのでしょうか。



くるということが、これからのセーフコミュニティ活動の忘れてはならない点ではないかという考えを持っております。

そして、それをさらに進めるためには、最後に、セーフコミュニティ活動への期待をさらに高めるような事例を、モデル的なケースをつくっていくことによって、信頼がないと答えた人に対しては、信頼をつくっていくということが大事ではないかと思っています。

以上で私の発表を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

## 5 おわりに

では、最後に何が言えるのだろうか。これが結論でありますけれども、1つは、いろいろな社会的な結びつきと、健康やけがの状況、安心・安全感すべて密接なつながりがあります。

人の関係に豊かさを持たすということは、安心・安全な社会をつくっていく非常に大きな基礎になっていくことは間違いないと思います。

最近ソーシャルキャピタル論(社会関係資本)人間の関係において、豊かさを考えるということが、地域の重要な資本となっていて、その地域をより良くする大きな基礎的な資源になっているということがよく言われます。これは、明らかにこれから推進していくべき大きな1つの方法だということは間違いないと思います。

しかしながら、個々人がその取り組みに対して関心があるから、その人が利益を享受できるというのは、セーフコミュニティの活動理念では必ずしもありえない。個々人の意識や取り組みだけに任せるのではなくて、人間関係の豊かさも含めて、安全な環境をつくっていき、関心がない人にも利益が享受できるような環境をつ